

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム ゆうゆう洪民 (姫神棟)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100139		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうゆう洪民 (姫神棟)		
所在地	〒028-4132盛岡市玉山区洪民字鶴塚1-1		
自己評価作成日	平成 23年 1月 17日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0390100139&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆうゆう洪民に入所してよかったですと思っていただけるように努めてケアを提供しています。まだ、開所から1年未満であり、様々なことへチャレンジし、グループホームの質の向上をさせていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームゆうゆう洪民は、木造の平屋2ユニット(岩手棟・姫神棟)で、平成22年3月に開所され、詩人石川啄木の故郷で知られる盛岡市の玉山区洪民に位置し、近くには啄木記念館があり、四季を彩る岩手山を仰ぐことが出来る。また周辺は新興住宅地で民家が建ち並んでいる。職員は創設期の気概に満ち、「その人らしく輝けるよう…」の理念の下、出来るだけ多くのことに携わってもらうことで、遣り甲斐をもって輝けるような場面を支援している。一方、センター方式に学びながら、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位の個別ケアに向け積極的に取り組んでいる。運営推進会議も定期的開催しており、より外部の人々の意見を運営に活かし、地域密着型サービスとしての役割を果たすべく今後の活動が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名：グループホーム ゆうゆう浜民（姫神棟）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで話し合いながら開所前に理念を作成したので、共有はできていると思う。全ての者が実践で活かせるように繋げていきたい。	開所に当たって、ゆうゆう浜民が目指すサービスのあるべき根本である「利用者が主人公として輝けるように」との思いを一つにし、管理者と職員で独自の理念を作り上げている。	開所して1年目を迎え、職員一人ひとりが理念を「ケアサービスの根本となる目標や指標」として認識し、日々のケア実践に活かし取り組んだかを振り返って見る好機と考えるので検討することも一考である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーに入居者と一緒に行き買い物をしている。地域の行事にも積極的に参加するなどしている。今後は地域のより多くの方々がホームに来てくれるような企画を考えていきたい。	自治会には加入していないが、地域のイベントなどへの参加のほか、近所のスーパーでの買物などで住民との交流を図っている。今後は自治会加入と共に、地域交流への基盤づくりに取り組んでいきたいとしている。	運営推進会議、公民館行事などの場を捉え、浜民で暮らす生活者として利用者の環境づくりについての話題提供をしながら、地域の一員としてのその任を担っていききたい旨を伝える話し合いを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゆうゆう便りを地域に配布するなどの試みをしている。地域包括支援センターとタイアップしながら認知症相談やサポーター養成講座等の開催ができれば実施していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の開所だったので、入居状況や活動状況を重点的に報告し意見を伺ってきた。入居者の方々が、浜民で楽しく健やかに暮らしていくための社会資源情報等が沢山だされ多くの情報収集ができた。	会議は2ヵ月ごとに開催し、ホームからの事業報告や施策の提起と参加者からの意見や要望の聴取により、双方向的に運営されているが、利用者、家族の参加を得ていないことは、今後改めたいとしている。	地域に深くつながるためにも、検討事項に応じて柔軟に参加者を得ながら、地域に開かれた運営を目指すと共に、サービスの質の向上につなげる運営会議になるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	玉山区地域包括支援センターをはじめ、各地区の地域包括を訪問したりしながら協力関係を築くことができた。	生活保護手続き等で本庁、支所へ足を運ぶことが多く、日頃の運営報告と共に情報を得る機会となっている。支所や包括支援センターからは、研修、インフルエンザ等に関する情報などを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関しては開所前に全スタッフで研修し、暴力行為や多動性の入居者がいたが、身体拘束や施錠をせず、職員全員でケアに努め現在は利用者も落ち着いている。	職員は、身体拘束の弊害を認識している。精神的に不安定な方もおり、逃避行動や転倒防止のための夜間の施錠以外、両ユニット（姫神・岩手山）の行き来もでき、職員の見守りの中、安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関しては開所前の研修にて、全スタッフで学んだ。入居者の些細な変化にも気がつけるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については開所前の研修にて、全スタッフで学んだ。現在、権利擁護が必要と思われる方がいるので、掘り下げて学び実践したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解・納得していただけるように時間充分に執って説明している。不明な点がある時はその都度説明し納得して戴けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見が直接スタッフへ表せられた場合は、その場で業務(ケア)に反映させらるるよう申し送りノートを使用している。外部からも同様としている。	家族の来訪時や電話の際には話しやすい雰囲気をつくり、意見や要望等を促しているほか、遠方にはFAXや電話、お便り等で得た情報を記録し、会議やミーティング時に共有し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談等で意見や提案を聞くことにしている。通常の業務中もしくは会議(ケアカンファレンス等)でも聞く機会はある。	開所スタートの志を共にしたこともあって、職員間の意見交換がフェアである。不安定な利用者に対する困難事象や経過・結果など、即座の情報伝達や対応で、利用者のダメージを最小限に留めるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入により経験による段階的な方向性と能力評価システムに沿って自己をすると共に、管理者との面談評価を行っている。その事により職員からの意見・提案等ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア評価システムによってスタッフの長所を伸ばせるような研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が実施している交換研修等に参加し交流、ネットワークづくりをしている。交換研修で学んだことを、とりまとめサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、どのようにグループホームで生活して行きたいのか等、面談で話し合い入居後にもその人の思いに添えるよう傾聴の姿勢を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを受け止め、意見・提案をいただきながら、良好な関係で入居者のケアに関わっていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意見を尊重し、今必要なケアを抽出すること、通院介助等の他サービス利用がし易い様ように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活支援を念頭に置き、調理が得意な人や、野菜作りが好きな人など、夫々の能力に応じて入居者同士支えあえるように職員はライフコーディネーター役を努めてながらケアをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全家族に「ゆうゆうだより」を配布し本人の思いやケアの方針をお伝えして。そして、家族の立場からケアに加わってもらえるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望をできる限り尊重し、その人が長年営んできた生活の継続ができるよう心掛けている。入居者の中には前ケアマネジャーに今でも近況報告等を行っている方もいる。宗教上の付き合いを入居後も継続し、ホームにて勉強会をされる方もいる。	親しくしている美容院、洋服店、食堂、喫茶店へ出かけるとか、馴染みの地域の方や墓参、隣人訪問など、利用者の希望を把握しながら継続支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係を円滑なものとするべく、スタッフはクッションとなれるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も継続的に関係を保っている。近況報告をお互いにしあったり、町内でお会いした際にも気軽に声をかけてくださっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を記録に残し、ケアカンファレンス等でその人の思いに沿えるような検討をしている。	利用開始時のアセスメントのほか、家族からの情報を通して利用者への理解、思いや意向の把握に努めているほか、センター方式に学びながら、必要な情報シートを効率的に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談等でできる限り把握するように努め、入居後も本人や訪問してくれる方々から情報を聞くなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の活動を記録し、その人の変化を見逃さないよう努めている。会議ではスタッフの気づきを大切にし、気づける目を伸ばすよう取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを最大限に汲みとり、介護計画を作成している。家族や医療機関等とも連携しより良いものとなるように努めている。	本人、家族、受診票の医師所見を考慮し、ケース記録、センター方式の記録など蓄積された情報、職員の意見交換を参考に、現状に即した個別的な具体的計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をベースとし、日々の変化に気づき柔軟に対応できるよう心掛けケアに取り組んでいる。気づきや工夫を見出した時は、申し送りノートに記載し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からのニーズに対応するよう努力している。特に面会時の急なお願いごとには、当日出勤しているスタッフで柔軟に対応しながら最大限にニーズに応えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開所から1年足らずなので地域の社会資源を十分に把握できているとは言い難いが、近隣のスーパーへの買い物や、姫神ホールで開催される催物への参加など積極的にしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	原則として、本人及び家族が指定した医療機関を受診している。受診にはスタッフも同行するようにしており、本人・家族・医療機関・スタッフが連携し医療を受けられるよう心掛けている。	本人、家族の希望する主治医がおり、定期的な受診を継続支援している。基本的には家族同行となっているが、多くの場合スタッフも同行し、利用者が抱えている不安や苦痛の緩和支援に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	疑問点や、気づいたことは、訪問看護用紙に記入し、看護的視点からアドバイスを頂けるように努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフは入院の際・病状説明等に立ち会い、心身の状態や本人の経過等を報告している。日々の受診にも立ち会うようにし、病院と入居者家族の潤滑油としてフォローし関係作りを心掛けている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時または面談時に重度化についての話し合いをしている。入居時の状態にもよるが中には看取りについての話もしている。本人や家族との関係をもっと深めながら段階的に終末期・看取りへの話し合いをしたいと思っている。	重度化や終末期における指針及び同意書等は明文化されており、利用開始時に説明している。重度化した場合には、主治医や関係者との連携を図り、段階的に方針を確認し合いながら支援につなげたいとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所前に、玉山区広域消防署に出向いて緊急時の対応の指導を受けた。職員の新規採用時には、研修の一環としてプログラムに組み込んで実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、全スタッフで避難方法を確認している。避難訓練に参加できなかったスタッフには報告書にて理解してもらっている。今年は地域消防や消防協力隊また近隣の方々に協力してもらい訓練したいと考えている。	開所して日も浅いことから、消防署員からの周辺状況、ホームの構造等から、連絡、避難要領等について専門的見地からアドバイスを受け、訓練を実施している。なお職員は、消火器操作、スプリンクラーの作動要件等についても熟知している。	周辺の宅地醸成が進行していることから、周辺環境の変化に対応する訓練が肝要と考える。又災害時には地域近隣住民の協力は欠かせない。近隣住民への具体的な支援体制の働きかけに取り組むことを期待する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを念頭に置き、共に暮らす家族であり顔なじみという関係づくりをし、その場その場にふさわしい声掛けができるよう努めている。	職員は、利用者の誇り、自尊心、自負心等についてよく理解し共有し、言葉がけに留意し、利用者の笑顔を引き出すような支援を心得ている。記録等の扱いについて個人情報保護の観点から徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意向をできる限り尊重し、買い物に行きたい、外出がしたい等の希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の希望を最大限尊重し、その希望が叶えられる様に支援している。美容院に行きたい、ラーメンが食べたい等、結構多くの希望が聞かれる。心身の状態や疾患を考慮しつつ希望が叶えられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら美容院や床屋を希望する方が多いので、その都度出かけている。化粧をしている方もいるので大切にしていきたい。身だしなみに興味を持たない方、支援を必要とする方にはスタッフが清潔の保持も含めケアをさせてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みをスタッフが把握し、会話の中から食べたいものを聞き出すようにしている。準備や片づけについては、無理強いせず、楽しみながらできるよう支援している。	食材は利用者と一緒に買出しをし、ユニットごとに利用者の状況に応じて、ミキサー食なども準備し、食事準備や片付けも出来る範囲で手伝って頂き、摂食・嚥下を促す歯科受診や口腔ケアに力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	男女差、年齢差、疾患の有無等に配慮しながら、一日の摂取カロリー等に気を付けるようにしている。また、食べたい物をできる限り食べていただけるように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣にも考慮しつつ、口腔ケアを支援している。また定期的に、訪問歯科による「お口の健康相談」を受けている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の能力を見極め、記録してパターンの把握をしている。必要と感じられた方には、自尊心を傷つけないような言葉遣いに配慮し、トイレへの誘導等の支援をしている。	排泄チェック等から排泄パターンを把握した上で、プライドに配慮したさりげない声かけや身振り言語(ボディランゲージ)での誘導をしている。失禁等では腹圧や筋力など、何が原因なのかを考えた援助を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘症の方については、医療機関と連携をとり、食物繊維の多いものの摂取をはじめ便秘解消のアドバイスを受け実行している。予防の取り組みとして生活の中で掃除や食事準備等で体を動かして頂いただけよう努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	主に午後から入浴希望が多いので準備を行い支援している。(希望があれば午前中に入浴をして頂く)就寝前の希望者もあり、夕食後にも入浴の準備を欠かさず行っている。	浴室、浴槽も広くゆったりで、入浴時には、皮膚、つめ、頭髪などへの状態に応じた支援にも力を入れている。体調や希望を考慮し、清潔保持のため週2回以上を支援し、夕食後の毎日入浴者にも対応している。好みに合わせて入浴剤等を入れるなどもしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を崩さぬよう、休みたいときには休んでもらうようにしている。また昼夜逆転にならないように配慮したり、その日その場の本人の状態を考慮し休んでいただくこともある。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬データをによってスタッフ全員が確認している。受診時に新たに処方薬があったり、変更されることがあるので受診記録に記入し、申し送りで誤薬投与ないように徹している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活のなかで、自身の楽しみや役割を持てるように買い物支援や食事作り、遊び等への参加や喫煙などで、その人の力を発揮できたり気分転換ができるように心掛けている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ特に買い物に行きたいとの希望が多く、できる限り支援できるように努めている。頻度は1日に1~2回の外出の支援をしている。墓参りへ行きたいと言われ、家族に協力を頂いて市外へ行ったこともある。	毎日の買物外出のほか、啄木公園が散歩コースとなっている。大型スーパーへのお楽しみ散歩や買物が喜ばれている。家族との外食や外泊、墓参への支援も行っている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて家族と相談しながら、お金を所持していただき個別支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の同意を得て、日常的に電話を掛けている入居者や、人によっては手紙を書いたり、FAXで連絡をする方もおりその支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の感じられる飾りつけや、壁には絵画・短歌の札を掲げたり、姫神山が見えるような設えをして解放感があるように工夫をした。照明は温かみがあり落ち着けるような色とワット数を選定し使用している。	共用空間からは岩手山や姫神山が見え、季節の移り変わりを感じることができる。木目と障子戸を基調にした和風造りで、天窓からの陽光が隅々まで届き、空調管理も行き届き快適な空間である。対面式のキッチンでは、職員と一緒に調理が行われ、家庭的な雰囲気やぬくもりを感じる居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に死角が多いことを利用し、いたる所で井戸端会議が開かれている。談話スペースは共有空間として活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に馴染みのある家具や物品をお持ちいただいている。その人らしさの出る空間づくりを心掛けている。	居室の入り口には、自作の作品や暖簾などで、自室がわかる工夫がされている。テレビや家族写真、小筆筒、守りご本尊、遺影など、本人の好みや安心につながる物品を持ち込んでいる。居室にも床暖房が入っており、そのまま座っても暖かい構造になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な雰囲気の中でその有する能力が発揮できて生活が営めるようスロープ・バリアフリー・浴室の手摺等、当社の今までの建物を参考にしながら内部の造作にも配慮した。能力的に衰えても福祉用具等が追加使用できるように工夫した。		